

和紙を糸にする特殊な技術を武器に、“和紙デニム生地”を開発。昨年から話題を呼び、現在では海外からの引き合いも。「今年は飛躍の年」と、並々ならぬ意欲を見せる。

複数の細い糸をより合わせて糸にする撚糸業も、不況の波に苦しんできた。研究を重ね、「水撚り製法」という特殊な技術を川崎撚糸(株)(福山市神辺町)と共同開発。和紙を特殊な溶液に浸してよりを掛けることで、丈夫な和紙糸を実現した。「軽くて肌触りが良い。吸水性に優れ、天然繊維なので廃棄しやすく、環境にも優しい」と、利点を強調する。

この和紙糸を使ったデニム生

地や、かばん、ストールなどさまざまな商品を製作。自社ブランドも立ち上げ、今年から販売を始めた。「通販サイトで採用され、百貨店の催事展でも好評だった」と、順調ぶりをアピール。「手作りのため、量産はできない」悩みを抱えつつも、「実際に触れてもらえれば、良さを実感できるはず。地道な販路拡大に力を注ぐ」と力を込める。

和紙糸製品の売り上げは全体の1割に過ぎない。だが「まだこれから」と光成部長。「今後はニットなど服飾、小物なども手掛けていく。四、五年以内に五割程度まで伸ばしたい」。和紙糸の可能性を模索しながら、事業に本腰を入れて取り組む。

## 販路拡大に熱意 和紙の糸で夢を手繰る

備後撚糸(株)  
和紙事業部 営業部長

光成明浩さん

福山市芦田町福田872  
☎084・958・3355